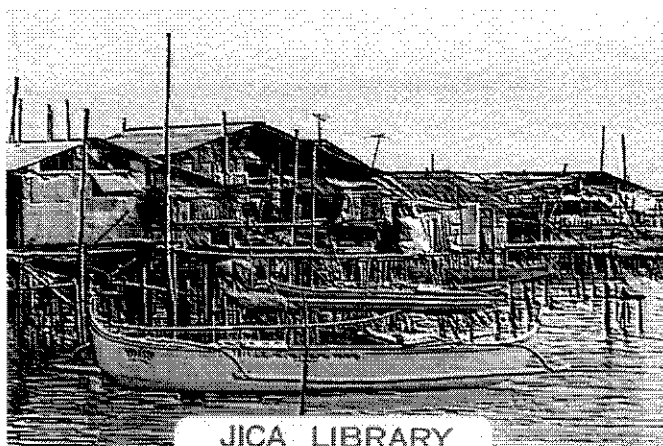


# 2005 年度 NGO-JICA 相互研修

「現場から考える人間の安全保障 ～NGO の視点、JICA の視点」

## 報告書



JICA LIBRARY



1182161 [8]

共催

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC)

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

総 研
JR
06-12

## 目 次

I	研修の成果と総括	
II	研修の構成	
	1. 研修の構成	9
	2. 関係者リスト	10
	3. 参加者リスト	11
III	国内研修	
	1. 国内研修の概要	15
	2. 事務所相互訪問	18
	3. パネルディスカッション	21
	4. 事例紹介	35
	5. 分科会及び全体会 I 発表	48
	6. 全体会 II	71
	7. 参加者アンケート集計結果	73
IV	海外研修	
	1. 海外研修の成果と総括	87
	2. 海外研修の概要	90
	3. 訪問プロジェクトの概要	92
	4. 海外研修の成果	110
	5. 参加者の感想 ～研修よもやま話	120
	6. 海外研修アンケート集計結果	124
付録	研修募集要項	141
	研修経費	145

## 報告書の発刊にあたって

NGO-JICA 相互研修は、NGO と JICA の対等な対話と相互理解を促進し、新たな協働につなげる重要な機会として毎年継続して開催しており、今回で 8 回目となりました。

相互研修の実施にあたっては相互有識者からなる検討委員会により、NGO と JICA の知見を混ぜ合わせて計画づくりをしています。そして研修本番には委員全員がファシリテーターとしてアクションを起こし、研修をより充実させています。そして、この報告書に表れているとおり、終了段階においては、各委員が振り返って研修を評価しているなど、具体的な連携事業のひとつのあるべき姿がこの研修から読み取れるものと考えております。

今年の研修テーマは「現場から考える人間の安全保障～NGO の視点、JICA の視点」でした。「人間の安全保障」はご存知のとおり、JICA においては緒方理事長のもと進めている JICA 改革の 3 本柱として、「在外強化」、「効果・効率性」に並び重視している視点です。また NGO にとっては自らの活動の意義を再確認し、より NGO の強みを活かした草の根レベルの直接的かつ持続的な活動をしていくために認識していきたい視点でもあります。

「人間の安全保障」の概念を、現場でどのように実践すれば良いのかということについては、これまで NGO と JICA 間で協議することも少なかったため、参加者間での概念の共有に時間がかかったり、未消化に終わった議論があったりしたことは否めません。しかし、それでも多くの参加者は国内研修・海外研修とも、夜遅くまで非常に熱心に議論を続け、事例の分析やインタビューを通して、現場実務者として意識すべき点をまとめていきました。

こうした参加者の努力により導き出された、「人間の安全保障」に関して現場実務者は何をすべきかというまとめのひとつが、本報告書を通して同様の問題意識を持つ多くの方に共有が図られ、参考となることを願っています。

最後になりましたが、意欲的なテーマに挑み、入念な事前準備と当日の精力的な活躍を担っていただいたコースリーダー及び検討委員の方々、海外で現場訪問にご協力いただきました（特活）草の根援助運動、また研修当日にご講義・ご案内いただきました方々に深く感謝申し上げます。

独立行政法人国際協力機構  
国際協力総合研修所  
所長 田口 徹

特定非営利活動法人国際協力 NGO センター  
理事・事務局長 山崎 唯司



1182161 [8]

# I 研修の成果と総括



## 1. はじめに

本年のテーマである「人間の安全保障」は、国際社会の動向と共に JICA が打ち出した新しい方針でもあり、これをテーマとすることに関して、いくつかの議論があった。NGO にとっての意味付けがまだ不明確である中で、JICA の方針を学ぶような研修になりはしないかという懸念と同時に、JICA 内でも概念は打ち出したものの肉付けの段階であり、研修として耐えられる内容が組めるかどうか、等々である。

準備段階の検討委員会では、NGO にとっては、既に自分達が取り組んできた方法論やアプローチを改めて考えてみる機会、国際的なひとつの潮流に関して NGO としてどう捉えたらいいのかの意見をもつ機会となろうとの意見、また、JICA にとっても、上からの方針として降りてきたものの、各人の仕事にどう繋がるのか、どう捉えたらいいのか、など具体化して考える機会となるなどのことから、難しいテーマではあるが取り組もうということとなった。

研修目的として、概念的な学習に留まるのではなく、現場の視点からどう捉えたらいいのか、現場の目線で見た場合に陥りやすい問題はないか、これらに関して NGO と JICA とで違いは何かなどを議論することとし、事例検討を通して学ぶことにした。

研修テーマゆえか、多彩な参加者を得ることが出来、活発な議論が行われた。JICA からの参加者では、地域部や課題部からの参加者も多く、NGO ではアドボカシー型 NGO からの参加もあった。どちらも本研修の検討委員をお願いできるような中堅スタッフの参加もあり、基本に立ち返る議論を活性化する役割を担っていただけた。

## 2. 研修内容企画の新たな試み

研修内容の構成は、ほぼ従来を踏襲したが、いくつかの点で改善を試みた。

特に改善したのは、分科会報告を受けた後の全体会の持ち方である。出来るだけ、参加者各人の学びを深め、それぞれの団体や業務にどう繋がられるかを考えてもらいたいと願って、各人の今後を考える時間を確保した。例年いろいろな工夫をしているが、本年の方法は具体的に考える良い機会となったと思う。詳細は後述のとおりである。

また、ここ5年ほどは正規プログラムと位置付けていた「事務所相互訪問」をオプションプログラムに戻した。実際には大半の方が参加し、JICA、NGO についてより具体的に学びまたその違いを実感することとなった。オプション

としたことで、参加者の負担が減り、参加者確保に繋がったと考えている。

海外事業事例を分析することで、議論を活発にしました考えを深めるという方法を取ってきているが、本年のテーマにそった事例を選定することは簡単ではなかった。しかし、既存の事業を「人間の安全保障」という視点で見るとどう見えるか、ということで選定したことで、かえって様々な議論をすることが出来、研修事例としてはふさわしかったと考えている。事例をご提供頂いた NGO や JICA 農村開発部には御礼申し上げたい。

### 3. 研修の成果

具体的な学びや直接的なアウトプットに関しては、各分科会からの報告に譲るが、総じて、国際協力の原点を問い直す議論が行われたことは、研修の趣旨として一定の成果を挙げたと考えている。もちろん、人間の安全保障の概念の基本に関しては十分理解したと考えているが、その具現化に関しては簡単ではなく、関係者みな肝に銘じた計画立案や対応をしない限り難しいことも認識した。具体的には以下の点をあげたいと思う。

#### (1) 「人々に届く・・・」の「人々とは誰か」をしっかりと考える必要性

JICA が策定した『人間の安全保障』7つの視点にある「人々」の文言が抽象的であることを改めて考え直した。具体的に誰に届く、あるいは誰を支えることを目的としているのかを明確にしないと、現実には届かないことを再認識した。社会的弱者といわれる人々は、外部者からはなかなか見えない。届いていると思いついでいるに過ぎないことも多い。NGO といえども陥りやすい。深い情報収集や関わり方の相当な工夫がなければならないことを学んだ。

「誰の為の援助（国際協力）か」という問い直しは、毎年議論されてきたが、今年「人間の安全保障」というテーマを掲げて議論したことで、一層参加者全員があらためて問い直す機会となったと思われる。これは、また NGO 事例の報告から学んだことも大きいと言えよう。

#### (2) 草の根を強化（エンパワー）すると同時に、制度や行政の機能強化の大事さ

弱者が更に危機に陥らないセーフティネットのあり方を考える時、当事者への強化と同時に、必要な時にアクセスできる仕組みや受け入れる機能が大事であることを改めて認識した。従来 NGO は、どちらかといえば行政組織と関係なく活動してきたことが一般的には多いが、草の根と行政や制度をつなぐことも念頭に置く必要性を認識した。

同時に、行政や制度が弱者にとって脅威となることもあるからこそ、「人間の

安全保障」の概念が重要であることも理解され、「関係する人々の意識化」が根幹であるとの意見もでた。「制度構築や強化」が単なる権限強化ではなく、質的に最も必要としている人々へのサポートができるような強化ということが明確に指摘された。

別の表現では、この概念は「意識化のツール」であるという意見もあった。皆が繋がるための共通の土台を作るものであるとの認識である。「連携」や「繋がる」ことがセーフティネットを形成するものであり、そのためにも共通の土台が不可欠であり、その基盤としての人間の安全保障という理解がされた。

一方で、概念自体にも多彩な捉え方があり、言葉が一人歩きすることの危険性への指摘もあった。

(3) 「人権ベースアプローチ」が取れない国でも「人々」に視点を置ける利点  
人権ベースアプローチの方が、より明確に人々の権利として捉えるものであり、政府の義務を明示するという指摘があったが、同時に、国により人権ベースアプローチが取れない国もあるなかで、最も困難を抱える人々へのエンパワメントの必要性への理解を促す上で使える概念であることも認識された。NGOにとってもこの点は大事な要素である。

本概念が、原因構造を必ずしも明示しないという曖昧な点が、利点でもあるが、一方で脅威を明確に認識する必要も指摘された。

#### (4) 問題の構造を分析して把握することの大事さ

上記と関連するが、単に弱者を救うことが本概念の活用なのではなく、その原因構造をきちんと分析理解し、それを当事者が変えることができるようになる支援が大事である。これこそがエンパワメントの要である。時として、これ自体が脅威にさらされることになりかねないが、原因にフォーカスした取り組みこそが重要であることが指摘された。

#### 4. 今後の課題

今回の研修に対しては、難しいテーマに関しての初めての試みでもあり、多くの成果が挙げられたと考えている。時間配分や事例選定、分科会のファシリテーション方法など、運営に関しての細かな反省や教訓はあるものの、全体としては予想以上にスムーズに運営できたと考えている。

本研修のひとつの目的は、「相互に学びあう」であるが、この点に関して、検討委員から出た意見も踏まえて課題を述べたい。



(1) 相互に学びあうという目的は、まだ継続する必要があるのではないか。

他の連携事業などもスタートしており、本研修の役割を問い直す意見もあったが、NGO・JICA それぞれの特徴や共通点をしっかりと議論しあう機会にはあまりない。また本研修が対象としているのは、比較的若手のスタッフであり、協議会等で意見交換する機会のない人たちである。また、自分の仕事とつなげて深く議論し考える機会は、他にはなかなかない。今後も、この特徴を踏まえた研修目的、研修方法を企画していくことで、特色ある事業として継続できるだろう。また、対象者を広げるという意味で、同様の企画を地方展開することも一案である。要望もあるようである。

(2) 相互の特徴を明確に再認識できる研修を

相互に学びあう中で、「共通点」の認識はかなり深まるものの、それぞれの特徴や強みについての明確な理解は必ずしもそれほど深まっていないように思う。連携を語るにしても、お互いの強みや違いをしっかりと踏まえた取り組みこそが、有意義な連携だと認識する必要があるだろう。

(3) 修了者向けのフォローアップを

以前から提案があるが、修了者向けのフォローアップ、ないしは中級研修があっても良いだろうと考える。前述の(2)を踏まえての連携モデルを作成するなど考えられよう。協議会でも様々な議論がされているが、「協議」という場での議論と、「研修」としての演習やワークショップでの試みとは同じではない。演習を通じて生み出されたアイデアを協議にも活かしていくことで、より現実的で意義のある連携が図れるのではないかと考えている。

例年、多くの方々のご協力により研修が実現してきていることに改めて感謝申し上げます。検討委員の皆様には、出来るだけ回数少なくと考えつつも、対等に議論をさせていただきながら企画するという本研修の特徴から、実際には多くの会議を重ねてきた。このプロセス自体も相互学習という目的の一端を担っていると考えている。特に事務局を担ってくださった、国際協力総合研修所の人材養成グループの方々、並びに JANIC には御礼申し上げたい。

## II 研修の構成



## 1. 研修の構成

テーマ：『現場から考える人間の安全保障～NGOの視点、JICAの視点～』

### 1. 研修の趣旨

- (1) 国際協力を実施する上でのパートナーとしてのNGOとJICA双方についての理解促進と国際協力に関する認識を共有する。
- (2) 将来の連携に向けた人的ネットワークの形成と情報交換の場を提供する。
- (3) 上記(1)、(2)を通じ、NGO及びJICA双方の若手及び中堅職員の人材育成に寄与する。

### 2. 研修の概要

「人間の安全保障の視点を取り入れてプロジェクトを行うと何が違ってくるの？」

「NGOこそ人間の安全保障を実践して言うけど、どうなの？」

人間の安全保障の定義や概念って、もういちど議論してもいいんじゃない？」

緒方理事長のもと、改革を進めるJICA。「人間の安全保障」に基づいたアプローチを実践していくことは改革の大きな柱です。今年度の相互研修は、NGO、JICAそれぞれの参加者が「人間の安全保障」について学び、誤解や課題を認識した上で、実際のプロジェクト事例などを基にその取り入れ方を議論し、現在各人が携わっている業務やプロジェクトの改善点を互いに見出します。

### 3. 主催者

独立行政法人国際協力機構（JICA）、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）

### 4. 国内研修期間

2004年9月15日（木）～9月17日（土）（2泊3日）

### 5. 研修・宿泊場所

国際協力総合研修所（所在地：東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5）

### 6. 研修経費

研修にかかる経費（教材費、宿泊費等）は、すべてJICAが負担します。研修参加に要する交通費は、東京近郊以外に居住する方についてのみ、JICAの規定により支給します。

### 7. 参加証明書

主催者より、研修全日程を修了された方に参加証明書を交付します。

### 8. 研修実施体制

- (1) コースリーダーのもとにNGO諸団体及び国際協力機構双方の代表によって構成される検討委員会を設置し、研修内容、実施運営について協議し、決定します。
- (2) JICA国際協力総合研修所人材養成グループ及び国際協力NGOセンターに事務局をおき、研修を実施します。

## 2. 関係者リスト

### コースリーダー

磯田 厚子	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター (JVC) 副代表 女子栄養大学 教授
-------	---

### 検討委員 (ワークショップファシリテーター)

下澤 嶽	特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 理事
尾関 葉子	DADA : アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト 代表
長 有紀枝	ジャパン・プラットフォーム 評議会アドバイザー・NGO ユニット監事
古澤 めい	特定非営利活動法人 草の根援助運動 事務局次長
戸賀 竜郎	特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 人材育成担当
牧野 耕司	JICA 企画・調整部人間の安全保障グループ 人間の安全保障推進チーム チーム長
向井 一朗	JICA 農村開発部第一グループ 貧困削減・水田地帯第一チーム チーム長
竹内 康人	JICA 国内事業部市民参加協力室 連携促進チーム チーム長
神内 圭	JICA 青年海外協力隊事務局 事業管理グループ 課題・活動支援チーム
石上 俊雄	JICA 国際協力総合研修所人材養成グループ NGO・自治体支援チーム チーム長

### 事務局 (JICA 国際協力総合研修所)

鈴木 康次郎	JICA 国際協力総合研修所 人材養成グループ グループ長
松久 逸平	JICA 国際協力総合研修所 人材養成グループ NGO・自治体支援チーム

### 3. 参加者リスト

【NGO】(50音順)

	氏名	所属団体	部署/担当業務	海外研修
1	会田 伸子	認定特定非営利活動法人緑の地球ネットワーク	JICA 草の根パートナー型技術協力事業 他	
2	飯澤 幸世	特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会	広報	
3	池田 晶子	特定非営利活動法人 21世紀協会	管理運営、企画立案 他	○
4	市川 和佳子	コンサベーション・インターナショナル・ジャパン	プロジェクトコーディネーター及び研究調査	
5	色平 哲郎	佐久地域国際連帯市民の会・アイザック (ISSAC)	事務局長	○
6	大原 佳菜子	特定非営利活動法人ブリッジエーシアジャパン		
7	川村 暁雄	ODA改革ネットワーク・関西	ODA政策・人権と開発	
8	清水 貴夫	認定特定非営利活動法人日本ブルキナファソ友好協会	国内活動	
9	下田 理	特定非営利活動法人日本紛争予防センター	広報、リサーチ等	
10	椿原 恵	地球共育の会・ふくおか	事業企画・評価、調査・研究、広報	
11	橋場 美奈	特定非営利活動法人アフリカ日本協議会	ODA・NGO、NGO間の連携促進、アフリカ 理解促進事業	○
12	船橋 周	財団法人 ジョイセフ (家族計画国際協力財団)	ミャンマー及びアフリカにおけるリプロダクティ ブヘルス、HIV/エイズ対策担当	○
13	古澤 真理子	社団法人日本ユネスコ協会連盟	世界寺子屋運動	○
14	松本 理恵	特定非営利活動法人難民を助ける会	タジキスタン・アフガニスタン北部事業担当テ スク	
15	森 ちえろ	特定非営利活動法人草の根援助運動	フィリピン奨学金プロジェクト	○
16	渡辺 直子	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	南アフリカ事業	○

【JICA】

	氏名	所属部署	担当業務	海外研修
17	青木 英剛	地球環境部第三グループ 水資源・防災第一チーム	水資源・防災分野における技術協 力プロジェクト・開発調査	
18	飯塚 健一郎	中東・欧州部アフガニスタン支援チーム	アフガニスタンへの専門家派遣、案件形 成、プロジェクトの予算管理	○
19	岩井 伸夫	筑波国際センター連携促進チーム	市民参加協力・開発教育支援	
20	岩崎 真紀子	アジア第一部管理チーム	予算管理、戦略・計画策定取りまと め	○
21	大井 明子	兵庫国際センター業務チーム	国民参加協力事業	
22	神谷 祐介	アジア第一部第一グループ フォローアップチーム	インドシナ及び中東における技術協 力プロジェクト・無償資金協力のフォローア ップ事業	○
23	久保 良友	青年海外協力隊事務局国内グループ 啓発・社会還元 チーム	青年海外協力隊への現職参加促進 と帰国後のキャリアサポート	○
24	坂口 幸太	国際協力総合研修所管理グループ 管理チーム	予算管理、図書館運営	
25	渋谷 優子	農村開発部第二グループ 畑作地帯第一チーム	バンクランジェルの技術協力プロジェクト及 びスリランカの各種案件	○
26	下谷 典代	アジア第一部管理チーム	国・地域別委員会事務局、国別事 業実施計画の資料作成	
27	神保 尚美	東京国際センター連携促進グループ 業務チーム	草の根技術協力・自治体連携事業	○
28	西村 恵美子	人間開発部第四グループ 母子保健チーム	母子保健分野における技術協力プ ロジェクト	
29	西村 拓	地球環境部第一グループ 森林保全第二チーム	アフリカ・中南米における森林保全プロ ジェクト	○
30	福永 敬	東京国際センター業務グループ 社会開発チーム	社会開発課題における研修員受け 入れ	
31	三浦 禎子	大阪国際センター業務第一チーム	開発教育支援	
32	森 悠介	農村開発部管理チーム	管理業務、開発指針策定調査	
33	柳川 伸二	総務部総務グループ 業績評価チーム	業務実績報告書作成、外務省との 連絡・調整	○



---

## Ⅲ 国内研修

---





## 1. 国内研修の概要

### (1) 研修テーマ

「現場から考える人間の安全保障 ～NGO の視点、JICA の視点」

### (2) 研修期間

国内研修：2005年9月15日（木）～9月17日（土）  
（2泊3日の合宿）

### (3) 研修参加者

NGO側参加者16人、JICA側参加者17人の合計33人

(5) 日程

**9月15日(木)**

事務所相互訪問 (希望者のみ)

時間	NGO 参加者	時間	JICA 参加者
13:30	集合・受付 (JICA 本部 8C 会議室)	13:30	集合・受付 (JANIC 事務所)
13:45~15:00	「JICA 改革プランについて」	13:45~15:00	NGO のプロジェクト運営・支援体制と国際協力活動の現状
15:10~16:10	「JICA 技術協力プロジェクトの計画から実施の流れ」	15:00~15:15	日本国際交流センターに移動
		15:15~16:45	日本国際交流センター到着 ①団体の成り立ちと発展 ②現在の活動と組織体制 ③ 職員の日常業務
16:15~16:30	JICA プラザ訪問		
国際協力総合研修所へ移動			

**国内研修**

17:30	国際協力総合研修所 400 号会議室 集合 開講式・事務連絡
18:00	夕食
18:45~19:05	講義「人間の安全保障の基本的概念」
19:05~21:30	パネルディスカッション「人間の安全保障への JICA、NGO の取り組み」
20:30~21:30	グループワーク 1 「私達の考える人間の安全保障」 (グループ毎に部屋に移動)
全 員 宿 泊	

**9月16日(金)**

8:30	グループワーク 1 (続き) 「私の考える人間の安全保障」 (グループ毎の視点を決定)
10:00~10:45	事例紹介 JICA 側: 「ミャンマー国コーカン地区麻薬対策・貧困削減プロジェクト」
10:45~11:30	NGO 側: 「シャプラニールによるバングラデシュ・イシヨルゴンジ郡における住民参加による包括的農村開発プロジェクト」
11:30~12:30	質疑応答・討議
12:30~13:30	昼食
13:30~18:00	グループワーク 2 「事例分析」
18:00~19:00	(夕食・意見交換会)
19:00~21:00	グループワーク 3 「改善案検討・発表準備」
全 員 宿 泊	

**9月17日(土)**

~10:00	発表準備
10:00	全体会 1 「グループワーク発表」、「『全体会 2』」の討論テーマ決定
12:00~13:00	昼食
13:00~13:30	全体会 2 「概念整理」 (各グループ・各参加者の考える「現場から考える人間の安全保障」について概念を再整理)
13:30~14:30	アクションプラン作成
14:30~15:30	全体会 2 「アクションプラン発表・総括」
15:30	閉講式 アンケート記入・解散

(6) 講師

9月15日(木)

(JICA 本部訪問)

項目	所属・氏名
JICA 改革プランについて	JICA 総務部総務グループ 組織運営チーム チーム長 小嶋 雅彦
JICA 技術協力プロジェクトの計画から実施の流れ	JICA 人間開発部 管理チーム チーム長 坂田 章吉

(NGO 事務所訪問)

NGO のプロジェクト運営・支援体制と国際協力活動の現状	国際協力 NGO センター (JANIC) 事務局長・常務理事 山崎 唯司
日本国際交流センター	日本国際交流センター 広報マネージャー 高橋 厚子

(国内研修)

開講式挨拶	山崎 唯司 JICA 国際協力総合研修所 人材養成グループ グループ長 鈴木 康次郎
「人間の安全保障の基本的概念」	JICA 企画・調整部人間の安全保障グループ 人間の安全保障チーム チーム長 牧野 耕司 (検討委員)
パネルディスカッション	牧野 耕司 ジャパン・プラットフォーム評議会アドバイザー・NGO ユニット監事 長 有紀枝 (検討委員)

9月16日(金)

項目	所属・氏名
事例報告 (JICA 案件)	JICA 農村開発部第一グループ貧困削減・水田地帯第一チーム 中村 史
事例報告 (NGO 案件)	シャプラニール＝市民による海外協力の会 海外活動グループ 白幡 利雄

9月17日(土)

項目	所属・氏名
開講式挨拶	山崎 唯司 JICA 国際協力総合研修所 審議役 黒木 弘盛

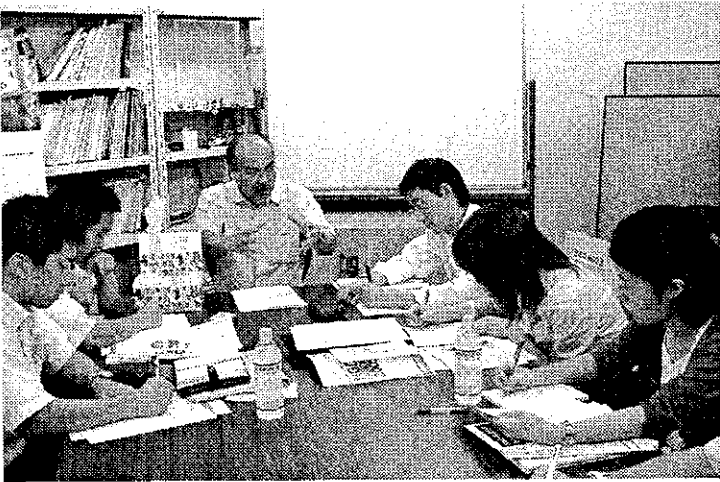
## 2. 事務所相互訪問

### 1. 概要

NGO、JICA 双方の相互学習・相互理解を深めるために、それぞれの組織概要や事業の進め方などを知ることがを目的として、研修最初のプログラムとして希望者を対象に事務所相互訪問を行った。

NGO 側参加者は JICA 本部にて JICA の事業概要やプロジェクト実施の手順、NGO との連携事業などについて各部署の担当者より説明を受けた。

また JICA 側参加者は（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）に集合し、山崎事務局長より日本の NGO の現状について説明を受けた。その後は日本国際交流センターの事務所を訪問し、実際の NGO 活動の様子を見学した。



JANIC 山崎事務局長



日本国際交流センター訪問

## 2. NGO 事務所訪問

### (1) 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC)

講師：常任理事・事務局長 山崎 唯司氏

内容：

- ・ 日本の国際協力 NGO の特徴と課題
- ・ JANIC の沿革と役割

### (2) 日本民際交流センター

講師：広報マネージャー 高橋 厚子氏

内容：

- ・ 団体の成り立ちと発展
- ・ 活動内容と組織体制
- ・ 職員の日常業務

JANIC では、参加者は具体的なデータを交えて、日本の国際協力 NGO の置かれている状況を様々な角度から説明を受け、日本の NGO の全体像と JANIC の役割について学ぶことができた。スタッフの育成や待遇など NGO の課題についても率直なお話を伺うことができた。

日本民際交流センターでは、会員獲得に直結する広報活動の重要性を中心にお話を伺った。フットワークとレスポンスで勝負する広報担当・高橋氏。彼女を衝き動かす「熱い心」に、JICA 側スタッフ一同、感化されるところ大であった。

JICA 側訪問者たちは、今回の職場訪問によって、会費収入に拠るところが大きい NGO 運営の厳しさに触れ、効率的な JICA 事業運営のあり方を考える上でも大きな刺激を受けているようであった。

## 3. JICA 本部訪問

### (1) 「JICA 改革プランについて」

講師：総務部総務グループ 組織運営チーム チーム長 小嶋 雅彦

- 内容：
- ・ JICA 改革プランの経緯
  - ・ 改革のポイント
  - ・ 改革への取り組み状況、今後の予定

### (2) 「JICA 技術協力プロジェクトの計画から実施の流れ」

講師：人間開発部 管理チーム チーム長 坂田 章吉

- 内容：・技術協力プロジェクトの特徴・目的
- ・プロジェクトの流れ
  - ・計画策定・PDMの概要
  - ・実施体制

NGO側参加者はJICA本部の会議室において、独立行政法人となったJICAが緒方貞子理事長のもと取り組んでいる「JICA改革プラン」の現状について、説明を受けた。改革プラン第一弾の3本柱は、「在外（現場）強化」、「効果・効率性と迅速性」、そして「人間の安全保障の視点」である。そのため今回の訪問は本研修のテーマにも関連するものとなり、参加者からは熱心な質問が続いた。

また「JICA技術協力プロジェクトの計画から実施の流れ」では、それぞれの国への事業実施計画に沿って、特定の期間内で一定の成果を達成するためにJICAはどのように専門家派遣、機材供与、研修を組み合わせた「技術協力プロジェクト」を計画し実施しているのかについて、実際の担当者から説明を受けた。参加者にとっては、これからの研修日程で議論するための予備知識を仕入れるだけでなく、自らの団体の活動とも参照しながら質疑応答を繰り返す場面が見られた。



「JICA改革プランについて」